

レジャー・レクリエーションの指導者への期待

鈴木 祐一
(東京女子体育大学学長)

豊かな時代への進展と共に、個人の生活様式の多様化の傾向も加速的にその広がりを見せている。レジャー・レクリエーション活動においても、活動自体を楽しむ形態と活動を手段として目的を達成することを求める形態とに分類できると考えられる。これらの目的化や手段化の形態の広がりの中で、様々なレジャー・レクリエーション行動が生まれ、個々のライフスタイルに見合った活動形態が模索されている。

身体的レクリエーション活動としてのスポーツも、ある特定の年齢層に限定されるのではなく、あらゆる年齢層、階層に受け入れられる活動として捉えられ、生涯スポーツとして定着してきている。年齢に応じ、時にはスポーツが手段化され、ある目的のために活用されたり、また、自身の楽しみとして目的的活動として生活の中に取り込まれている。身体的な活動にとどまらず、知的、精神的、情緒的、芸術的、社会的な活動などについても同様な意味あいで、手段化し、目的化して活動展開がなされている。そこでさらによりよい活動を求めようとする時に、進歩、向上を求めて知識・技術の習得を願う行動が起き、指導の授受が生れる。ある特定の活動を楽しめる領域にまで変化させていくためには、それなりの努力と工夫が必要であり、未知への挑戦には試行錯誤があり、効率的な達成を願えばそこに指導の授受が生じることは当然といえよう。

個人の趣味・嗜好の分野に入り込むレジャー・レクリエーションの指導者とは、レジャー・レクリエーション活動の知識・技術の伝達だけではなく、レジャー・レクリエーション指導を通じて「生き方」に関わる支援も可能であることが望まれている。指導者としての深い洞察力、模範となるべき行動、幅広い体験を有しており、尊敬に値するライフ・スタイルの持ち主であって欲しい。レジャー・レクリエーション指導者であるからこそ、社会からの期待は大であり、指導者養成については、関係者のいっそうの努力が望まれている。

レジャー・レクリエーションの指導者への期待は、現在の主たる課題を検討し、明確にすることによって、自ずと把握されていくものと考えられる。

(1) レジャー・レクリエーション(L/R)をより広義に捉える

★広義なL/Rの概念把握により、限定化されたL/Rから広がりが生れ、ゆとり・豊かさの実感へ向けてL/Rが果たしている役割を十分理解し、余暇を創造していく“余暇化(Leisurelization)を実現する能力”、さらに“余暇内容を向上させる能力(Leisurability)”を育むことが重要である。活動中心に進められてきたレクリエーション運動について、学術的にも社会の変革の中で、L/Rの在り方、存在、意義を再認識し、生きる糧を得る経済活動と、人間の生き方の中で必需となる喜び・楽しみとしての活動とを対蹠的要素として捉えることなく、心の時代づくりに貢献することが期待されている。

(2) 指導者の役割

★技術指導ではなく、生き方；おもしろい技術ではなく、楽しく生きる術；など既存の指導者養成に対する見直しと共に、これまでの教えることから、影響を与えることへ視点を変え、家庭で、学校で、職域で、地域で、様々なリーダーシップを発揮し、個人活動の豊かさについていっそう視野にいれ、共に活動する指導者を目指すことが期待されている。

(3) 高等教育機関でのL/R指導者養成の役割

★大学諸学部での自由科目や共通科目の活用により第二 (Major, Minor) 選考としてのL/Rの資格化・認定化や諸課程、例えば社会教育主事課程との関係や生涯スポーツ指導者養成課程の創設などにより、大学体育の転換に対する具体的提案も考えられる。

身体的レクリエーションとしての生涯スポーツ需要の拡大は、生涯スポーツ (Sports for ALL)に関する指導者の需要増加傾向にあるといつてよい。この分野での人材育成機関としての体育系大学の役割、またその人的資源を確保する視点からの大学体育の革新 (イノベーション) はいかにあるべきかを改めて考えるときである。スポーツを手段化した形態で活用していくためには、そのための学習内容の整理が求められる。生涯スポーツとしての“みんなのスポーツ (Sports for All)”は、スポーツ活動から疎遠になっている一般市民をも対象とした“みんなにスポーツ (Sports toward All)”という概念理解にたった指導者が期待されてくる。専門家としての指導者とボランティアとしての指導者が必要になるとき、専門カリキュラム (体育系大学) と同時に一般体育としての大学体育 (非体育系大学) のカリキュラムの指導者養成課程への連携や組み込みも考慮すべきである。具体的には；

- 1) 生涯スポーツの時代の体育系大学の研究課題とカリキュラムの基本方針
☆専門家育成としての方向性、教師、コーチ、トップアスリートとしての選手養成・強化等。
- 2) 生涯スポーツの時代のボランティア活動分野の人材育成と大学体育の役割
☆体育会等に所属して行っている活動と大学一般体育との融合・連携による指導者育成。また大学体育の受講は、自らの楽しみや学びだけでなく、希望する者には生涯スポーツ指導者としての資質の充実を図るべきである。

(4) 学会の役割

★現存のL/Rカリキュラム、コース、科目等の開設大学・学部・学科・コース・担当教員のネットワーク化、ワーキンググループの構成などを積極的にすすめ、学会と大学との関係や連携を密にし、将来的には資格認定、コース承認、科目認定、履修証明、課程修了証明の実現などについての検討もすべきである。

学会員の所属する高等教育機関でのモデル校化をはかったり、計画の具体化のためにパイロットスタディーなども開始すべきである。